

学校図書館研究部

1 研究主題

「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」を育む学校図書館教育の推進
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、情報活用能力の育成と
豊かな心をはぐくむ読書指導～

2 研究主第について

今年度実施の小学校学習指導要領、横浜教育ビジョン2030、横浜市立学校 カリキュラム・マネ

ジメント要領を受け、横浜市の子どもたちに育成すべき資質能力を、図書館教育の視点で授業改革を図るべく、次のように設定した。

- 1) 「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」を育む学校図書館教育の推進
- 2) 主体的・対話的で深い学びの実現
- 3) 情報活用能力の育成と豊かな心をはぐくむ読書指導

～課題解決的な学習のプロセスを意識した授業づくり～

3 研究方法および年間活動(事業)報告

月	内 容
7月	幹事会・区部長会・総会（文書）（1日） 審査部研修・区部長会（読書感想文審査について）（1日）
8月	企画会（18日）
9月	重点研究会（学校図書館年間指導計画のカリキュラムの見直し）・区部長会・審査部研修（感想画審査について）（9日） 区読書感想文コンクール審査会（23日）
10月	市読書感想文コンクール準備会・児童図書研究会（7日）
11月	市読書感想文コンクール審査会（4日）
12月	重点研究会（学校図書館年間指導計画のカリキュラムの見直し）（2日） 区読書感想画コンクール審査会（16日）
1月	市読書感想画コンクール審査会（13日）
2月	市読書感想画作品返却（3日）
3月	企画会（3日）

今年度は、コロナ禍で集まることが難しく、当初予定されていた研究の多くができなかった。その中で、昨年度改訂版が出された「横浜市学校図書館利活用の手引」を元に、学校図書館年間指導計画のカリキュラムの見直しを行った。9月に1・3・5年、12月に2・4・6年を対象に国語科の単元についてグループで討議を行った。

また、児童の作品応募があるため行った読書感想文・感想画コンクールについては、感染防止の観点から、審査の質を落とさずに合理的に行う方法を模索して行った。

4 研究の成果と課題

○学校図書館年間指導計画のカリキュラム見直しは、必要性を感じながらも、どう進めればよいかわからない会員も多くいたため、具体的な教材を使って実際に検討することができたのは良かった。参加者から「参考になった。」という感想もあった。密を避けるために、距離を取った上でグループ討議をしたので、参加者一人一人が意見を言うことができたのも、良かった。

○読書感想文・感想画コンクールでは、大きな課題となっていた時間の短縮を図ることができた。上位に選ばれた作品が、全国コンクールでも上位入賞を果たしていたので、審査の質を維持した上で合理的に進められたのは大きな成果と言える。審査の観点をはっきりさせ、一次審査でしっかりと審査できていたのが大きい。

○課題としては、コロナ禍の中で、共用で使用する図書資料の扱いや読書会をどのような形で進められるかの検討がある。研究会として取り上げ、会員が知恵を出し合うことで、また新たな学びを展開できる可能性がある。来年度は、この状況だからこそ、そういったことも取り上げ、実りある研究会にしていきたい。